

5 環境を考えた消費生活

1時間扱い

学習のねらい

社会の進展に伴う大量生産・流通・消費・廃棄のシステムの中で、暮らし方を見直すことが求められている。消費生活の面から環境をとらえ、環境保全を考えた社会システムのあり方を模索する。

キーワード：便利な暮らし、環境問題、国際化、経済活動、グリーン・コンシューマー

内容

現代社会では便利な暮らしが可能になるが、大量生産・流通・消費・廃棄というシステムをいったんつくってしまうと、それらによる環境被害は深刻であり、時に国を越えて砂漠化や温暖化、災害の増加などの地球規模の被害をもたらす。途上国では便利な暮らしをどう得るかという課題だけに注目しがちだが、社会の発展と環境を守るシステム作りが同時に構築される試みが必要である。環境問題の発生原因は、他ならぬわれわれの生活である。初等教育では、自分にどのようなことができるか、日常生活のなかから問題点と解決策を考えてみるような身近な学習が望ましい。中等教育では、賢い消費者、あるいはグリーン・コンシューマーの育成の視点から、問題をみつめる。グリーン・コンシューマーとは、自ら環境に不可を与えない生活を実践する消費者のことを指す。

学習活動（初等）

- 自分が毎日している作業で、環境のためによくないと思われることはなにかを書き出す。

例：レジ袋、缶ジュース、ペットボトルなど

学習活動（中等）

- 5つのR
Refuse リフューズ（断る）
Return リターン（戻す）
Reduce リデュース（減らす）
Reuse リユーズ（再利用する）
Recycle リサイクル（再利用する）

はどのように可能か、方策を考えてみる。

- 写真のような川は安全か、どのような健康被害が出そうか、考えてみる。



- リサイクルの表示マークの意味を考える。（その国のマークを使用）

